

はこじ郎の ぶらぶら ジオ日記



今回は、南足柄エリアのジオサイト「御嶽神社と矢佐芝石丁場」を紹介するね。

御嶽神社は平安時代末期には既にあったと考えられ、三竹の地名となった神社だよ。

境内にある2本の鳥居杉は樹齢が推定500~700年、高さは50メートルで県内第1と言われ、市の天然記念物に指定されているんだって。また周辺は、スダジイ、タブノキなどの常緑広葉樹や、この地域を分布の北限とするイズセンリョウが自生する貴重な自然林となっていて、県の天然記念物に指定されているよ。

この神社が建っている場所は、箱根外輪山の明神ヶ岳の麓で、周囲には箱根火山を起源とする溶岩が点在していて、神社の古い石段は小田原市久野の奥から切り出された久野石（かま石）が利用されているよ。この石は、箱根火山起源の凝灰岩（火山灰や火山礫などの火山噴出物が積もって固まった岩）で、加工しやすく耐火性があることから、かまどや蔵に使われ、南足柄や小田原で広く利用されていたんだって。

また、御嶽神社から北西1キロほどの矢佐芝地区には、かつて石材を切り出した石丁場が点在し、小田原城や江戸城の石垣に使われたと考えられているんだよ。大きな石には小さくするためにあけた矢穴だけでなく、○やおでんのような刻印が入った石も見る事ができて、これらは幕府から江戸城の修理を命じられた大名が、自分の所有権を示すために彫ったものなんだって。

南足柄エリアのジオサイトは今回で最後だよ。

みんな、覚えているかな~?

次回からは箱根ジオパークの拠点施設に出かけるよ！お楽しみにね！

「御嶽神社」へは、伊豆箱根鉄道大雄山線「相模沼田駅」から徒歩約45分
※「南足柄ジオガイドの会」がご案内します
お気軽にお問い合わせください！
(Tel.0465-73-8001)



南足柄市ふるさと大使「よいしょの金太郎」

その後、参加者は「A・真鶴湯河原エリア」、「B・箱根エリア」、「C・南足柄・小田原エリア」に分かれ、交流会が行われました。



この研修会は、ユネスコや文部科学省が推進する「ESD（持続可能な開発のための教育）」の理解促進を目的に実施しました。

1日目は、おだわら市民交流センター「UMECO」において講演やグループワークを行いました。講演では2名の講師の方にジオパークと持続可能な開発や教育について具体例を交えながら講演を行いました。

「第11回日本ジオパークネットワーク全国研修会」を開催しました!!

2月1日、2日に箱根ジオパークにおいて「第11回日本ジオパークネットワーク全国研修会」を開催し、全国55地域から約120名が参加しました。

2日目、箱根エリアの参加者33名のみなさんは箱根湯本エリアでフィールドワークを行い、ジオサイトである「玉簾の瀧」を見学した後、箱根観光ガイド協会ガイドの案内で「白石地蔵」、「横穴式源泉跡」、「熊野神社」、「福住旅館外壁」を見学しました。

今回は普段のガイドツアーとは手法を変え、ESDを意識した案内、ガイドが話をするのではなく参加者が主体となり現地での抱いた疑問や質問をガイドにぶつけ、対話をしながら見学をするという形をとりました。

「湯本見番」では、芸妓さんに見番がなぜ温泉街に必要なのか、バブル全盛期のお話等、普段聞けない貴重な話をしてもらい、「郷土資料館」では、学芸員の案内により箱根が日本を代表する温泉街へと発展していった歴史や文化を資料や写真を通して学びました。

最後に、6つのグループに分かれ、見学地の関係性についてそれぞれの考えを発表しました。今後も自分たちの住む地域の課題や問題を見だし、それらを解決するために必要な能力や態度を身につけることを目指し活動していきます。

町では、今年度最後の森林セラピーツアーイベント「マインドフルネス森林セラピー」を行います。
「マインドフルネス」とは、今この体験に意識を向けることにより、ストレスから解放され、心が落ち着いて集中力が高まる体験です。今回は、初心者の方でも易しく学べるように、早川沿いの森林セラピーウォークと森林セラピーワークショップと講義を合わせた授業を行います。
早春の宮城野を感じながら、あなたも森林セラピーを体験してみませんか。



授業は事前申込が必要です。申込はWebで「はこじよ」と検索して応募してください。
照会先 森のふれあい館
☎03-66006

「マインドフルネス森林セラピー」に参加してみませんか？
箱根青ノ湖森林セラピー基地通信(その2)

箱根町「園・小・中学校一貫教育(分離型)」

平成29年度のまとめ

【成果】

小・中学校では、一貫教育に向け、多くの児童・生徒が、小・中学校の交流の目的や意義について理解してきており、小・中一貫教育の意識が浸透しつつあります。

【課題】

中学校進学や学校生活に不安を感じている児童が少なくありません。

【中1ギャップ解消のために行っていること】

- 小学校の教員が、中学校の様子を見に行っています。
- 小学校6年生が、中学校1日体験入学をします。
- 中学校3年生が、母校の小学校に行って、中学校生活の話をします。



【次年度に向けて】

- 中学校の先生が、小学校へ行く交流授業を拡充していきます。
- 行事や交流の際の目的について、児童・生徒への言葉かけをしていきます。



箱根の森小学校の下駄箱（湯本小学校と仙石原小学校の下駄箱も同様です）



箱根中学校の下駄箱

※下駄箱の靴は、小・中学校ともにいつでも綺麗に整列しており、小学校で身に付いた習慣は中学校に引き継がれています。